

週間展望・回顧(ドル、ユーロ、円)

October 15, 2021

ドル円続伸も恒大デフォルト懸念に警戒

- ◆ドル円、原油価格上昇や11月FOMCでのテーパリング開始決定観測で底堅い展開か
- ◆日本9月貿易収支、米国為替報告書、正副FRB議長人事、中国恒大デフォルト懸念に警戒
- ◆ユーロドル、10月製造業・サービス業PMI速報値や独連立協議に要注目

予想レンジ

ドル円 112.00-116.00 円
ユーロドル 1.1200-1.1700 ドル

10月18日週の展望

ドル円は、原油価格の上昇を受けたインフレ高進懸念や11月の米連邦公開市場委員会（FOMC）でのテーパリング（資産購入の段階的縮小）開始決定の可能性を背景に、底堅い展開が予想される。上値を抑える要因としては、3回の利払いを履行していない中国恒大集団が18・19日にデフォルト（債務不履行）を宣言する可能性が高まっていることが挙げられる。

また、毎年10月中旬に議会へ提出される米財務省の「為替報告書」では、米国と中国や日本との貿易不均衡が拡大していることで、財務省の見解に要注目となる。米国と中国は、今月から第1段階通商合意の履行状況の検証と一部の未解決問題についての協議を開始している。イエレン米財務長官は、為替管理を止めない中国を念頭に「貿易面での優位性を得るため人為的に通貨価値を操作する他国のいかなる試みにも反対する」と述べている。4月の為替報告書では、制裁対象となる「為替操作国」の認定はゼロだったが、中国や日本など11カ国を通貨政策への警戒が必要な「監視国」としている。1-8月期の対中貿易赤字は2189億ドルで昨年同時期の1926億ドルから拡大。対日貿易赤字も428億ドルで昨年同時期の320億ドルから拡大している。中国の1-9月の対米貿易黒字は2800億ドルに拡大している。

更には、FRBの正副議長の人事にも注目したい。発表時期は未定だが、9月のFOMCでの金利予測分布図で、2022年の利上げを予想したタカ派は18名中9名だった。しかし、タカ派のローゼングレン米ボストン連銀総裁とカプラン米ダラス連銀総裁は、倫理規定違反で辞任を表明。クラリダFRB副議長も倫理規定違反が取り沙汰されている。タカ派のクォールズFRB副議長も13日に任期満了を迎えた。パウエルFRB議長は、監督責任により2期目の上院での承認が危ぶまれている。バイデン米大統領が2期目続投を容認するのか、それとも、ハト派の急先鋒であるブレイナードFRB理事が指名されるのか注目されている。

ユーロドルは、ドイツの社会民主党主導の連立政権の組み合わせへの警戒感や英国と欧州連合との北アイルランド議定書を巡る議論が難航していることで上値が重い動きが続く中、ユーロ圏10月の製造業・サービス業PMIの速報値に注目する展開となりそうだ。ユーロ圏のインフレ率は、天然ガス価格や原油価格の上昇を受けて、13年ぶりの高水準を記録しており、インフレ高進の下での10月の景況感を見極めることになる。

10月11日週の回顧

ドル円は、112.08円から113円台後半まで上昇した。WTI原油先物価格は82ドル台まで上昇し、米10年債利回りは1.62%台まで一時上昇。米9月消費者物価指数は前年比+5.4%となり、インフレ高進は一時的ではなく、持続的な可能性が高まりつつある。ユーロドルは、米10年債利回りの上昇で1.1524ドルまで下落後、1.1624ドルまで反発した。ユーロ円は、円が全面安の展開となったことで、129.28円から132円台前半まで上昇した。（了）